

ぎやんくぶ ④

2013 年お年賀号

blog.gyahunkoubou.com

取扱アーティスト

KARA

AKB48

安室奈美恵

倉木麻衣

Aimer

カーリー=レイ=ジェブセン

アレクサンドラ=スタン

LMFAO

ロンアン=レッド

西村寿行

太田俊寛

東浩紀

貫井徳郎

石持浅海

貴志祐介

鈴木光司

リドリー=スコット

剛力彩芽

深作欣二

日高のり子

古谷徹

夜見野レイ

ミナセ

コンテンツ

音楽のレビュー

本のレビュー

声優学入門

ゾンビに人権はあるか？

『天使の街～プライマリー～』プロモーション

ぎやんくぶ工房

ぎゃふん④試し読み版



芝草の工房

芝草の④

みなさま、おはようございます、こんにちは、
こんばんは、はじめまして。

『ぎゃふん』第4号をお届けいたします。

前号と同様、
「ぎゃふん工房のブログ」のエントリーから
どなたにもお読みいただけそうなものを
厳選してお届けいたします。

贈りものとしては
いささか手前味噌ではございますが、
わずかな時間でも
お楽しみいただければ嬉しいです。

2013年1月1日 米田政行

もくじ

音楽のレビュー	4
KARA『KARA BEST CLIPS』	
感謝する その“暴力的”な愛おしさに	6
AKB48『ギンガムチェック』	
ま、なんだかんでトップクラスの楽曲だと思う	10
安室奈美恵『Uncontrolled』	
ダウンロードでなくCDを持っておきたい	12
倉木麻衣『OVER THE RAINBOW』	
神の視点からこの世の理を語る	14
Almer (エメ)『あなたに会わなければ～夏雪冬花～/星屑ビーナス』	
ガールズ・ラブ小説のテーマ曲に認定	15
カーリー=レイ=ジェプセン『キス～デラックス・エディション』	
古風な名前と楽曲のギャップ萌え	16
アレクサンドラ=スタン『ミスター・サクソビート～恋の大作戦～』	
カッコいいのにあどけない	17
LMFAO『Sorry for Party Rocking』	
元気が出てくる カラ元気かもしれないけど(爆)	18
ロシアン=レッド『フェルテバンドラウラより髪をこめて』	
ひと足早く春の兆しを感じさせるギターの調べ	19
本のレビュー	20
西村寿行『去りなんいざ狂人の国を』	
オウム真理教の事件でわかったこともたくさんある	22
大田俊寛『オウム真理教の精神史 ロマン主義・全体主義・原理主義』	
国家を作ろうとするものが暴力的であるのは必然である	25
東浩紀『一般意志2.0——ルソー、フロイト、グーグル』	
ネット上の〈知〉は(一般意志)になりえるか?	26
『地震イツモノート』	
防災対策は“気づき”のゲーム	29
眞井徳郎『乱反射』	
読後にどう受け止めたらいいか困惑する	30
石持浅海『耳をふさいで夜を走る』	
今回の推理の対象は殺人ではない	32
石持浅海『Rのつく月には気をつけよう』	
これまた「推理ショー」の見事な舞台装置	33
貴志祐介『悪の教典』(上)(下)	
絵に描いたような貴志ワールドは嬉しいかも	34
鈴木光司『エッジ』(上)(下)	
角川ホラー文庫で出さなければ	35
声優学入門	36
ゾンビに人権はあるか?	44
『天使の街～プライマリー～』プロモーション	50
ぎゃふん工房が独自ドメインgyahunkoubou.comを取得	58



音楽

のレビュー

音楽の嗜好は、人によりさまざま。
万人が楽しめるモノは多くはないでしょう。
ここでは比較的ポピュラーなもの、
みなさんが名前くらいはご存知であろう
アーティストの作品を中心に
レビューをしていきます。

感謝する その“暴力的”な愛おしさに

ユニバーサル シグマ ¥3980

★テーゼ1★ ビデオクリップは暴力的である

ぎゃふん工房のブログを初期のころからお読みの方はご存知かもしれないが、ブログは「歌って踊るおねえさん取扱店」でもある。

ところがここ数年は、その手の作品をほとんど取り上げていない。なぜか。

年齢的な嗜好の変化もあるかもしれないが、「暴力的な表現」のインパクトに対する〈心のショック・アブソーバー〉が弱ってきているのも原因のひとつだった。

つまり、感受性の一部が失われてしまったのだ。

いま「暴力的な表現」と書いたが、表現はことごとく「暴力的である」といえる。

ホラー監督として世界的に知られる黒沢清氏は、なぜ暴力をテーマに映画を撮るのかという質問に対し、「映画だから」と答えながら、こう述べている。

直接目と耳を刺激してくる映画というものそれ自体が、そもそも暴力的魅力に満ちているわけです。

(『黒沢清の映画術』新潮社)

ここでは、「映画」について語っているが、同じ映像と音の表現である「ビデオクリップ」にもあてはまるだろう。

★テーゼ2★ 「さん」の女、「ちゃん」の女

襟野未矢氏の著書に『「さん」の女、「ちゃん」の女』（双葉社）というのがある。

「さん」の女は、まわりから頼りにされ、ひとりでも生きていけそうなイメージの女性。「ちゃん」の女は反対に、他人に頼り、可愛がられながら生きていくような女性のことである。

襟野式分類法はあくまで実社会の女性の話なので、これを敷衍して、作品上の女（虚構の世界の女）に対して、「さん」の女＝攻撃型（プッシュ・タイプ）、「ちゃん」の女＝守備型（プル・タイプ）と呼ぶことにする。

★テーゼ3★ KARA はどっち？

実際にビデオクリップを鑑賞する前のKARAのイメージは（そして一般的な理解も同様だと思うのだが）、「さん」の女＝攻撃型（プッシュ・タイプ）であった。

ハイセンスな衣装を着こなし、これ見よがしに美脚を披露しながら、歌って踊る。

まさに攻撃であり、暴力的。

自分にはとうてい受け入れられない。

そう思っていた。実際にビデオクリップを再生するまでは、だ。

『KARA BEST CLIPS』に収録されている楽曲は、前期と後期に大別できる。

「Rock U」「Pretty Girl」「Honey」「Wanna」が前期、「LUPIN」「ミスター」「JUMPING」が後期である。

そして、前述の分類法でいえば、前期＝「ちゃん」の女、後期＝「さん」の女に対応する。

日本でよく知られているのは、「LUPIN」「ミスター」あたりだろうから、KARA＝「さん」の女＝攻撃的（プッシュ・タイプ）という一般に流布するイメージは間違っているわけではない。

しかし、前期はあくまで「ちゃん」の女＝守備型（プル・タイプ）なのである。

とくに1曲目「Rock U」において特徴的なのだが、衣装、セット、メイク、表情などが、きわめてカジュアルである。「LUPIN」に象徴される一般的なイメージとは真逆と言ってよい。

つまり、KARAはベースに「ちゃん」があり、その延長線上に「さん」があることを踏まえなければ、“KARA学”に入門したことになるのだ。

とはいえ、「さん」だろうが「ちゃん」だろうが、それ自体はたいして重要ではない。どちらが良い悪いの問題ではないからだ。

「ちゃん」の女は、暴力的ではない。そして、プル・タイプ（表現の押し売りはしない）であることが自分にとって最重要だ。

なぜなら、KARAが全編にわたり「さん」の女であったなら、おそらく受け入れられなかったかもしれないからだ。

でも、前半は押さない。後半で初めて押してくる。これなら“リハビリ中”の心にもやさしい。

段階を踏めば、「さん」の女としての攻撃にも耐えられるようになる。その貴重なきっかけをKARAは与えてくれたのだ。

だからここで言いたいのは次のひとことだけだ。

〈感謝する。その“暴力的な”愛おしさに〉



AKB48『ギンガムチェック』

ま、なんだかんでトップクラスの楽曲だと思う

キングレコード [Type-A/数量限定生産盤] ¥1600

ブログでAKB48を取り上げたのは、じつはこれが初めてです。

古くはSPEEDやモーニング娘。といった日本を代表するダンス・アイドルグループをレビューの対象とし、またブログでは扱っていないが、もろ「おニャン子」直撃世代としては、AKB48こそ当然語らなければならない“物件”でした。

しかし、前のKARAのところで書いたように、こういった“強い刺激”を一時期受け入れられなくなってしまっていたのが、AKB48スルーのおもな理由です。

とはいえ、“リハビリ”中にも、iTunes Storeで「フライングゲット」「Everyday、カチューシャ」「ヘビーローテーション」などはダウンロードしており、じっくりと下地づくりには励んでおりました。

で、満を持してのCD購入。『ギンガムチェック』であります。

アップテンポな楽曲、遊び心満載の能天気なビデオ。

文句のつけようもありません。

まさに「ビジュアルとサウンドの禁じられた融合」。

このコンセプトは、歴史を振り返れば、プレスリーをその原点に挙げることができるかもしれませんが、老若男女・全世界的に普及させたのは、やはりマイケル＝ジャクソン（セガ人としては「マイケル局長」と言いたいですが）でしょう。（『スリラー』のオマー

ジュのようなシーンも挿入されていますし。)

AKB48 も日本のトップアイドルだけあって、〈手間とお金がかかっている感〉は他の追随を許さない。この安定感はずなわち安心感につながります。

これが、マイケル局長にも通じることは言うまでもないでしょう。

ただただ音と映像のシャワーに身を委ねているだけで楽しい気分になってくる。

今の世の中であって、じつに貴重で幸福なことであります。



安室奈美恵『Uncontrolled』

ダウンロードでなくCDを持っておきたい

avex trax [CD+DVD] ¥3990

どんな音楽生活（ミュージック・ライフ）を送るかは、人それぞれであって、正解はありません。

現在は、ケータイやスマートフォン、iPodなどに楽曲データをダウンロードし、イヤフォンやヘッドフォンで聞く——というのが一般的な音楽の楽しみ方であるように思います。

でも私の場合は、部屋中を音楽で満たし、“音のシャワー”に身を委ねたいので、このネット時代にあっても、未だCDで音楽を鳴らしています。

iTunesの音ではパワー不足で、部屋中に“音のシャワー”を響き渡らせることはできないからです。

でも、時代はさらに進歩しました。

iTunesのAirPlayという機能を使うと、CDと同じ音質で音楽を奏でることができるのです。（聞く人が聞けば違いがあるのでしょうが、少なくとも私は聞き分けることはできません。）

遅ればせながら、私もCDレスの生活に！ みんなの仲間入り！

……と思っていたのですが、良い音楽はCDで聞きたい——いや正確にはCDを「持っておきたい」という感情は捨てきれないのでした。

音質はネットもCDも変わらず、価格面でいえば、ネットのほうが割安です。

にもかかわらず芽生える「CDが欲しい」というこの感覚。不思議です。

といったところで、購入したのが、安室奈美恵『Uncontrolled』でした。

もちろん、iTunes Storeでも配信されているアルバムですが、CDを買ってしまいました。

基本的にはダンスミュージックなので、私のいうところの“音のシャワー”に身を委ねたい曲とは少し異なります。

しかし、「Love Story」などは“しっとり聞かせる音楽”になっており、ボーカリストの貫録もあいまって、これはまさしく、アンプで音を増幅し、5.1chのスピーカーで堪能するのにふさわしい楽曲になっています。

ネットからダウンロードしても、CDからデータをコピーしても、あるいはCDプレイヤーで再生しても、聞こえる〈音〉は同じなのですが、やはり手元にアルバムという目に見えるカタチがないと、満足感が得られない気がするのです。



つづきは正式版でお楽しみください。

ぎゃはん ④

© 2013 GYAHUN Koubou

2013年1月1日 デジタル版発行
2022年3月3日 デジタルリマスター版発行

出版者 米田政行

発行所 Gyahun工房
mail@gyahunkoubou.biz

※表示の価格はすべて税込みです。また、情報は2012年11月末時点のものです。